

民主

PRESS MINSHU

2012年 vol.4

号外

(秋田三区版)

民主党プレス民主編集部

〒100-0014

東京都千代田区永田町1-11-1

電話03-3595-9988 (代表)

press@dpj.or.jp

http://www.dpj.or.jp

明日の日本 生活が第一

あいつぐ豪雪被害。 雪国の暮らしを、命を、守る。



内閣府視察団 玉川温泉雪崩現場視察

尊い命を奪った2月1日の玉川温泉雪崩事故を受け、7日、内閣府の郡和子政務官が、国土交通省、気象庁の担当者とともに来県し、現場を視察しました。

この視察には、堀井啓一副知事、門脇光浩仙北市長、また民主党秋田県連雪害対策本部から京野公子衆議院議員、小原正晃県議が同行しました。

視察団は事故現場で黙祷を捧げた後、温泉施設の関係者から事故の様子について説明を受けました。田沢湖庁舎で行われた意見交換会では、十和田八幡平国立公園周辺の雪崩危険箇所について、早期の防護柵設置を求める声が上がりました。これに

郡和子政務官は、積雪があるうちは具体的な安全策を取るのには難しいとの認識を示しながらも、「調査結果を待った上で、国もなるべく早く対応したい」と応えました。

京野きみこ衆議院議員 「一日も早い再開を」

視察終了後、京野きみこ衆議院議員は取材に対して、県と仙北市より出された雪害対策関係の要望については、秋田県第三区総支部長として自身が責任を持って対応することを約束したあと、次のように述べ、一刻も早い施設の再開に思いを滲ませました。

「犠牲になった方々のご冥福をお祈りします。事故の起きた場所を

すぐに再開することは、現代の風潮が許さないでしょう。しかし、長寿社会でありながら、早い時期に病に倒れる方々がいることも事実です。そういう方々の頼みの綱とも言うべきメッカを、一日も早く再開してほしい、そのような要望もあります。今回被害に遭われた方の遺族にも、安全策を講じたうえで、ぜひ、自分の家族のような方々のために再開してほしい、とお願いしていると聞きました。自然の脅威のまえに、虚心坦懐にこうべを垂れつつ、どうか折りあう形での、一日も早い再開を望んでいます。そのためにできることを、迅速に、かつ、着実に進めていこう、と思います」

(民主党3区プレス号外編集部)

